



## 平成26年度 全国SSH生徒研究発表会

## ポスターセッション発表

## 「ゼニゴケのDNA解析～雌雄はどのようにして決まるのか～」

平成26年8月6日、7日に平成26年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会が行われました。全国からSSH指定校の約200校が集まり、日頃の研究成果を発表しました。

本校からは環境科学科3年生の生物ゼミ生徒5名が2年次のSS探究科学Ⅱ内で近畿大学生物理工学部、大和勝幸先生の指導のもと行われた研究テーマ

「ゼニゴケのDNA解析～雌雄はどのようにして決まるのか～」

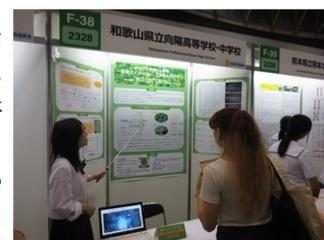
についてポスター発表を行ってきました。発表内容は、ゼニゴケの決定された遺伝子の全塩基配列の中で雌の性染色体にある雌に特有の遺伝子をPCR法を用いて決定できた研究成果の報告を行いました。同時にアピールタイムにも積極的に参加し、研究成果の英語口頭発表を行いました。その中で多くの高校生や他校の教員の方々が熱心に耳を傾けて頂き、交流を深めることができました。そのほか、京都大学副学長・生命科学研究所の稲葉カヨ教授の講演「免疫応答の司令塔—樹状細胞—」があり、女性の視点からの研究の面白さ、楽しさ、厳しさにつ



アピールタイムでのプレゼン風景

いて貴重なお話を聞くことができました。

また、国内だけでなく海外の学校からの研究成果の英語発表があり、参加した生徒たちは、積極的に意見交流し、密度の濃い国際交流を行うことができました。



## 平成26年度 日本動物学会

## ポスターセッション発表「里山におけるチョウ相の比較」



2014年9月13日に東北大学川内キャンパスで行われた、日本動物学会に環境科学科2年生2名が参加し、SS探究科学Ⅱ並びに理学部で行った「里山におけるチョウ相の比較」というテーマについて研究発表を行ってきました。「自然」にはヒトの手が入ると自然環境の破壊を起こす可能性が高いとされています。「里山におけるチョウ相の比較」の研究内容は、ヒトの手がほどよく入った里山は日本固有種生物の生態系における多様性を豊かにすることについて調べたものです。

具体的には和歌山の里山「元気の森」や「ビオトープ孟子」にいるチョウの種類や個体数を比較することにより検証を行いました。

学会には全国から60近くの高校生のポスター発表がありました。また、全国から多くの研究者や大学の教員の方々が参加しており、有益なアドバイスや励ましの言葉を頂きました。

今回のポスター発表の成果に対し、優秀賞を頂くことができました。賞をとったことと並び、仙台という遠い場所で研究について多くの人と熱く議論できたことは今後研究を続けていくうえでの財産になったと思います。



## 今後の予定

- |  |  |
|--|--|
| 1月16日(金) 5限 先端科学講座 (環境科学科1年生対象) 【数学講座】 | 和歌山大学 北山 秀隆講師                          |
| 1月29日(木) 5限 先端科学講座 (環境科学科1年生対象) 【科学英語】 | 京都大学 Denis FRATH博士                     |
| 2月5日(木) 5限 先端科学講座 (普通科2年理系対象) 【化学系講座】  | 大阪府立大学 岡 勝仁教授                          |
| 2月17日(火) 向陽SSH成果発表会【課題研究発表：2年環境科学科】    | プレゼン見学 2年普通科理系生徒<br>ポスターセッション見学 向陽中3年生 |